

③ 医療提供体制

今月1日、自宅療養者等の医療提供体制を充実するため、地域医療担当部に自宅療養環境整備担当課を設置しました。練馬区医師会や練馬区薬剤師会と連携しながら、かかりつけ医や薬剤師による健康観察を新たに実施します。また、往診医、訪問看護師、訪問薬剤師が連携した医療提供体制を強化し、症状が悪化した際に速やかに医療につなげていきます。酸素投与が必要となった場合の受け入れ先である、「(仮称)練馬区酸素ステーション」を光が丘第七小学校跡施設に早期開設すべく、区は都に働きかけ、実務的な協議を進めています。

感染患者の入院受け入れやコロナ外来を設置している医療機関に対し、引き続き区独自に、患者受け入れ実績などに応じた支援を実施します。

● 困窮する区民・事業者の支援

コロナ禍にあって、生活が困窮している方々が早期に自立するうえで、住居確保給付金や生活困窮者自立支援金は大きな役割を果たしています。この取組みを更に進め、住居確保給付金等の申請期間を延長するとともに、就職が決まった方に、区独自に就職支援給付金を支給します。

売上が減少した事業者の資金繰りを支援するため、昨年3月から区独自の特別貸付を実施しており、4,000を超える事業者に、約370億円の融資を実行しています。返済時期を迎え、新たな資金需要や返済計画の組み直しに対応するため、本年5月から借り換え特別貸付を開始しました。これまでに167件、26億円の融資を受け付けています。引き続き、事業継続の下支えとなる資金繰りを支援します。

区が支援する練馬区商店街連合会の30%プレミアム付商品券販売には、募集枠に対し、倍近くの申し込みがあり、一昨日から利用されています。商店街等での消費を喚起し、キャッシュレス化を推進するため、区内対象店舗を利用した際に、20%のポイント還元を実施します。12月のスタートに向けて準備を進めています。



区内の商店街で使える「ねりまプレミアム付商品券」

教育・子育て施策**● 区立学校の対応**

2学期が始まりました。児童・生徒の感染リスクを軽減するため、緊急事態宣言期間中は、授業を午前までに短縮し、給食後に帰宅としています。登校できない児童・生徒に対しては、午後の時間帯にオンライン授業を行っています。また、学童クラブやひろば事業の時間枠を拡大して、子どもたちの居場所を確保しています。

中学校の修学旅行は、緊急事態宣言期間中の実施は見合わせることにしました。小学校の移動教室も同様に取り扱いますが、昨年度行けなかった6年生を優先し、5年生は今年度の実施を見送ります。

● 医療的ケア児の保育園入園に係る優先選考の実施

医療的ケア児は、現在、区立直営8園の障害児枠で受け入れていますが、保護者の就労が困難なことから、入園しにくい実態があります。これを改善するため、8園に各園1人の医療的ケア児定員枠を設け、一般児童の前に選考を行う優先方式を導入します。来年4月入園の受付時から開始し、医療的ケア児が保育所に入園しやすい体制を整えます。

● 保育所のICT化推進

園からのお知らせや連絡帳、アンケートなどの

ICT化については、既に多くの私立認可保育所で導入が進んでいますが、地域型保育施設や認証保育所への導入を更に促進します。区立保育所は、民間委託園で先行して導入を進めています。直営園では、国の情報セキュリティに関する方針により導入を見合わせていましたが、方針が改定されたことから、来年度、全園で導入するための準備を進めます。

高齢者施策**● もの忘れ検診の実施**

認知症を早期に発見・診断できるよう、医師会と連携して10月から、区内約140カ所の医療機関で、「もの忘れ検診」を開始します。今月、対象となる70歳、75歳の方に、受診券やチェックリスト等を発送します。検査結果に応じて、地域包括支援センターが専門医療機関への受診や介護予防事業など、個人に合った支援につなぎます(8面参照)。

● 介護予防・フレイル予防講座などの実施

コロナ禍にあって、高齢者が自宅で心身機能の維持に取り組めるよう、新たにリハビリ専門職を活用し、オンラインによる介護予防・フレイル予防の講座を開始します。また、高齢者がスマートフォンを使って行政サービス等を利用できるよう、都と連携し、はつらつセンターや敬老館でスマホ教室を実施します。

(仮称)高野台福祉園の整備

旧高野台運動場用地に整備する高野台新病院は、工事が着実に進んでおり、4年8月の開院を予定しています。

病院と併せて整備する「(仮称)高野台福祉園」は、4年10月の開設を目指し、本年11月に着工する予定です。定員は55人とし、医療的ケアの必要な重症心身障害者5人を受け入れます。また、介護する家族の高齢化により、ニーズの高まっている入浴サービスを実施します。

大泉学園町希望が丘公園の開園

練馬のみどりを未来へつなぐため、特色ある公園づくりを進めています。

大泉学園町希望が丘公園の第2期工事が完了します。300㎡の屋根付広場、遊戯広場、芝生広場などを整備し、既に利用を開始している多目的運動場やテニスコートなどと合わせ、2ヘクタールの公園として今月25日に全面オープンします。

都市農業施策

都市農業の大きな魅力である新鮮な農産物を、より多くの区民の方に味わってもらえるよう、11月に、区役所アトリウムにコインロッカー式農産物販売機を設置します。運営は、農業者と障害者団体の協働により行います。

このほかにも農福連携の取組みが進んでいます。先月、区内産アスパラガスの茎を利用したほうじ茶の販売が始まりました。乾燥、焙煎などを福祉作業所の利用者が担っています。引き続き、農福連携事業の推進に取り組みます。

庭先直売所、区内産農産物を使用している飲食店、マルシェや商店街イベント等、区内の産業情報を発信するアプリ「(仮称)とれたてねりま」の開発を進めています。11月にリリースする予定です。



区内各地にあるコインロッカー式農産物販売機

おわりに

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が閉幕しました。オリンピックではデンマークのホストタウンとなり、区内小学生がオンラインで選手団と交流を深めました。パラリンピックではエクアドルのホストタウンとなり、応援動画に出演した区内小学生が、聖火の採火を行いました。練習会場として提供した練馬総合運動場公園は、選手団の皆さんから、大変高い評価を頂きました。



デンマーク選手団と小学生とのオンライン交流の様子

万全の感染対策と、選手団が宿泊した区内ホテルのきめ細やかで心のこもったおもてなしにより、ホストタウンとしての役割を全うできたものと考えています。

デンマークのイエスパー・ハンセン選手は、オリンピックの射撃・男子スキート個人で銀メダルを獲得しました。パラリンピックでは、陸上女子砲丸投げ・知的障害で、エクアドルのポレス・メンデス選手が金メダル、アナイス・メンデス選手が銅メダル、陸上女子走り幅跳び・上肢障害で、キアラ・ロドリゲス選手が銅メダルを獲得しました。

私も宿泊先ホテルや練習会場に赴き、選手団の皆さんを激励するとともに、メダリストの健闘を労いました。

ホストタウンとしてお迎えした選手の皆さんが活躍されたことを、心から祝福したいと思います。

前回の東京大会は、私が大学に入学した年でした。高度経済成長の只中であつた当時と比べ、我が国の社会経済状況は様変わりしました。世界で最も早く少子高齢化が進み、バブル経済崩壊後、永く経済が低迷しています。

そこを今回のコロナが直撃したのです。世界的なパンデミックの影響や度重なる緊急事態宣言の発出などにより、日本経済の見通しには、未だ非常に厳しいものがあります。東京都も、感染症対策による大幅な歳出増、基金残高の激減、オリンピック・パラリンピックの経費負担増等の課題を抱えています。

区財政も厳しい状態にあり、今年度当初予算で、基金と起債合わせて270億円以上を活用しています。区長就任以来、リーマンショック時の教訓をもとに、計画的に基金を積み立ててきたことにより賄えていますが、現在の状況が続くと、今後数年で基金は底をつき、起債残高も莫大な金額となるのではと懸念しています。大規模自然災害などにも備える必要があり、何としても持続可能な財政運営を堅持しなければなりません。

私たちは今、新型コロナウイルスとの闘いの最中にあります。区民の皆様、練馬区医師会、練馬区歯科医師会、練馬区薬剤師会、医療機関などの皆様と力を合わせ、総力戦で挑まなければ、この危機を乗り越えることはできません。

永い目で見れば、今回のコロナ禍は必ず克服できます。私たち基礎的自治体に今求められているのは、緊急時にあってこそ、右往左往することなく、感染防止と医療体制の充実、区民・事業者の支援、社会インフラの維持など各分野で、着実に歩を進めて行くことであると確信しています。

地域や現場の声を聴きながら、奇を衒うことなく将来につながる施策を重点的・機動的に実施していく、コロナ禍にあって、こうした私の区政に臨む姿勢が変わることはありません。

区議会の皆様、区民の皆様と手を携えて、この難局を乗り越えるために、引き続き全力を尽くす決意です。ご理解、ご協力を宜しくお願いします。